

棚田と暮らす原風景
～里山で暮らす丸太の住宅～

CONCEPT

長い歴史の中作られた棚田で、北山丸太を活かした住宅を計画する。農業をし里山の生活を営む。里山は完全な自然でもなく完全な都市でもない。



人と生き物が共に暮らし、適当な距離を保つ。そういった原風景のような生活を棚田で暮らしながら実現する。

SITE

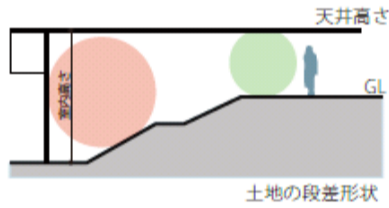
今回の敷地はイメージであるが、京都の有名な棚田に建築する。折曲がった形状や高低差などは敷地によって異なっていく。



LEVEL

棚田の段差のある形状を利用し、居室空間を実現する。

- 開放的な空間
EX:リビング・ダイニング
- 落ち着いた空間
EX:寝室



DESIGN PROCESS

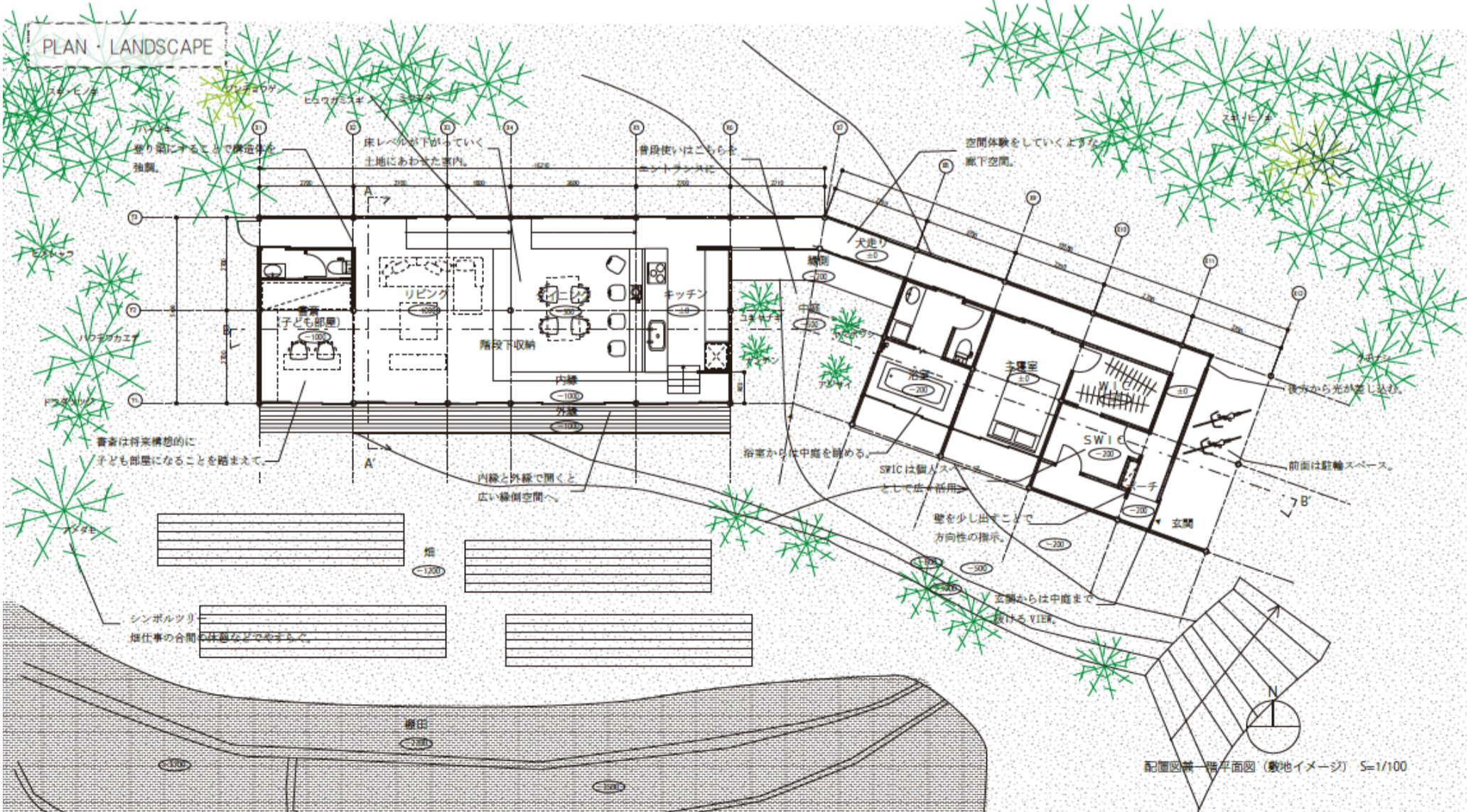
丸太の木造架構造を使用し活躍したアントニン・レーモンド (1888-1976) の作品に着目し架構モデルなどを製作し検証した。



接合や加工について学び、北山丸太を活かした構造フレームを設計し、住宅の居室空間へ利用した。



PLAN · LANDSCAPE



配図図集 一階平面図 (敷地イメージ) S=1/100

COURTYARD

背後の山々、目の前の棚田という雄大すぎる強い自然に対し閉じられた小さな中庭は自然の愛くるしさ繊細さを伝えてくれる。



中庭の様子

中庭から光が入ってくる廊下

INTERIOR

レベル差のある室内空間と登り梁により上下間にも広がりのある室内空間を実現。レベルにより違いが生まれることで均質な空間に感じ方の差異を生む。



ダイニング周辺の様子 (模型)

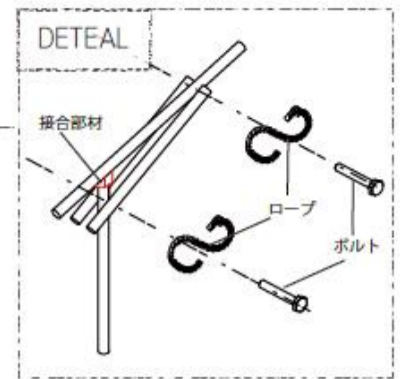
リビング周辺の様子 (パース)

STRUCTURE

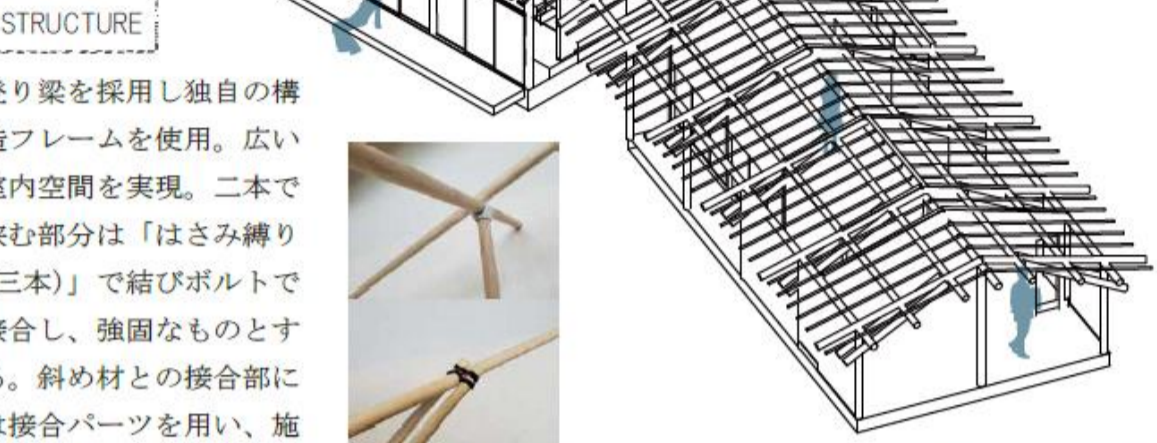
登り梁を採用し独自の構造フレームを使用。広い室内空間を実現。二本で挟む部分は「はさみ縛り(三本)」で結びボルトで接合し、強固なものとする。斜め材との接合部には接合パーツを用い、施工時の負担を軽減する。



架構詳細模型

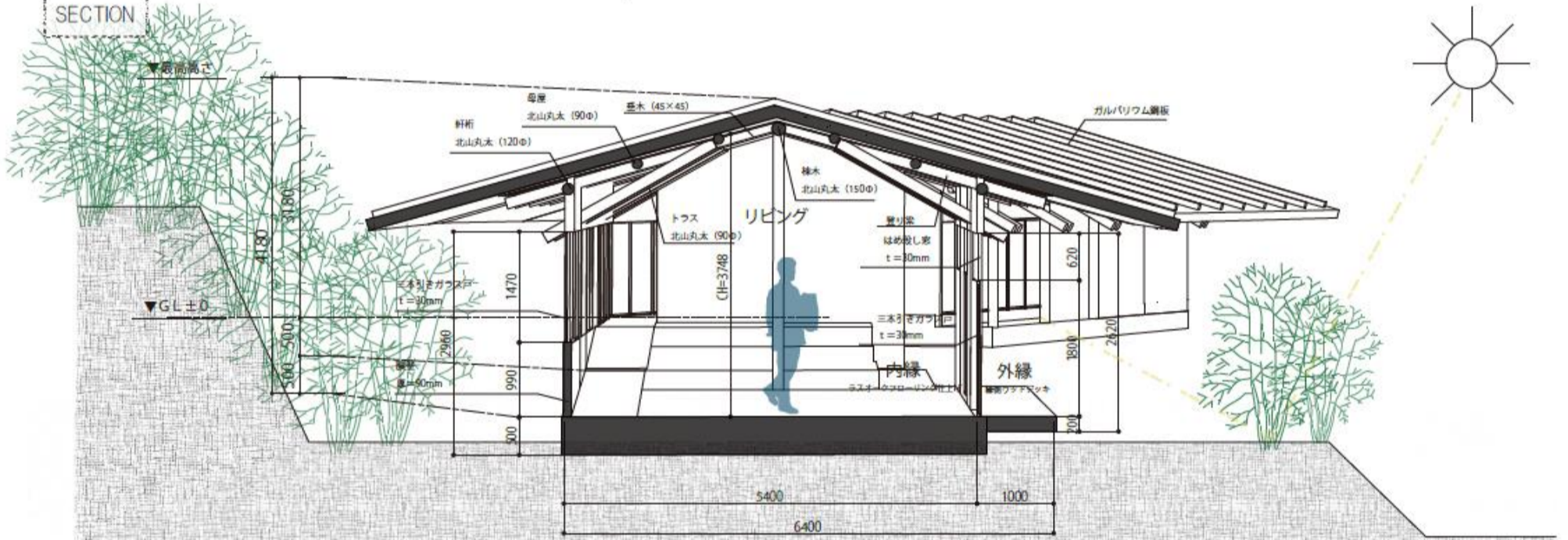


架構フレーム詳細図

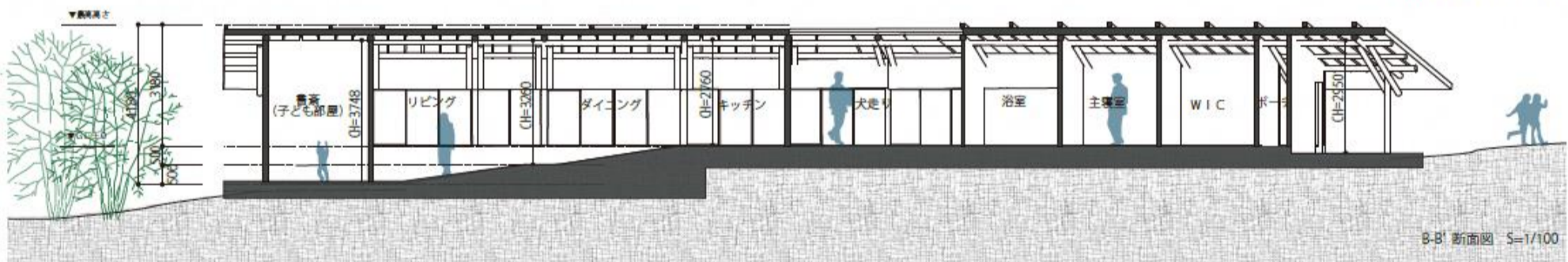


躯体アイソメ図 S=1/100

SECTION



A-A' 断面詳細図 S=1/50



B-B' 断面図 S=1/100

MODEL

